

こども

子供のインターネットバイブル

あんない

案内いたします

だましたヤコブ



ぶん

文: Edward Hughes

え

絵: M. Maillot; Lazarus

かいさくしゃ

改作者: M. Kerr; Sarah S.

ほんやくしゃ

翻訳者: Yuko Kajiki

監修者: Dan Ellrick

しゅっぱんしゃ

出版社: Bible for Children

www.M1914.org

BFC

PO Box 3

Winnipeg, MB R3C 2G1

Canada

©2007 Bible for Children, Inc.

許可: 他人に売らない限り このお話のコピー、又はプリントは、許可されています。





かみ

神さまは、もうみなさんのおうちに、かわい

あか

い赤ちゃんをとどけてくださいましたか？

それって、ほんとうにうれしいですね。

きっとイサクとリベカは、みんなの

にほい

二倍もうれしかったにちがいあり

かみ

ません。どうしてって、神さま

ふたり ふたご

は、二人に双子をくださったの
ですからね。



ふたご あか

双子の赤ちゃんは、リベカの

なか

おなかの中で大あばれ。

いの

リベカがお祈りしていると、

かみ

い

神さまが、こう言われました。

ふたり おとこ こ

「リベカ、二人の男の子は、

くに

二つの国をつくるだろう。

おとうと ほう

そして弟の方が、

あに

たいせつ

兄よりもっと大切にされ

るようになるだろう。」でも、

あに

ふつうは、たいてい兄のほうが、

たいせつ

大切にされたのですけれどね。さあ、

あか

う

ついに赤ちゃんたちが、生まれましたよ。



ふたご に
どうい^うわけか、その**双子**たちは、あまり似^ていませんでした。
あに けぶか おお かり
兄のエサウは、とても**毛**深^くて、大^きくなるにつ^れて、**狩**がたい
じょうず おとうと ひ
そう上^手になりました。**弟**ヤコブは、すべ^{すべ}の皮^ふで、
いえ しごと てっだ だいす あに
家の**仕事**を手^伝うのが、大^好きでした。お父^{さん}イサクは、**兄**エ
ほう あい かあ ほう
サウの方^を愛^しました。また、お母^{さん}は、ヤコブの方^が、
す
好^きでした。



ある^ひ日のこと、エサウは、おなかがすいてたまりませんでした。「何か、^{なに}食^たべるものをくれないか？」エサウは、ヤコブに^い言いました。「それじゃ兄^{にい}さん、私^{わたし}

^{ちょうなん}に長男^{ちやうなん}のけんりをくださいよ。」ヤコブ

は、つよく^い言いました。そのときエサウ

^{ちょうなん}は、長男^{ちやうなん}にくださっ

^{かみ}た神^{かみ}さまのやくそくなど、^き気^きにもしませんでした。「いいよ、そうしよう。」エサウは、

ヤコブに^いそう^い言^いってし^いま^いった^いのです。こうなると、^{ふたり}二人^{ふたり}のお父^{とう}さん

^なが^な亡^なくなった^な時^{とき}には、ヤコブが^なかぞく

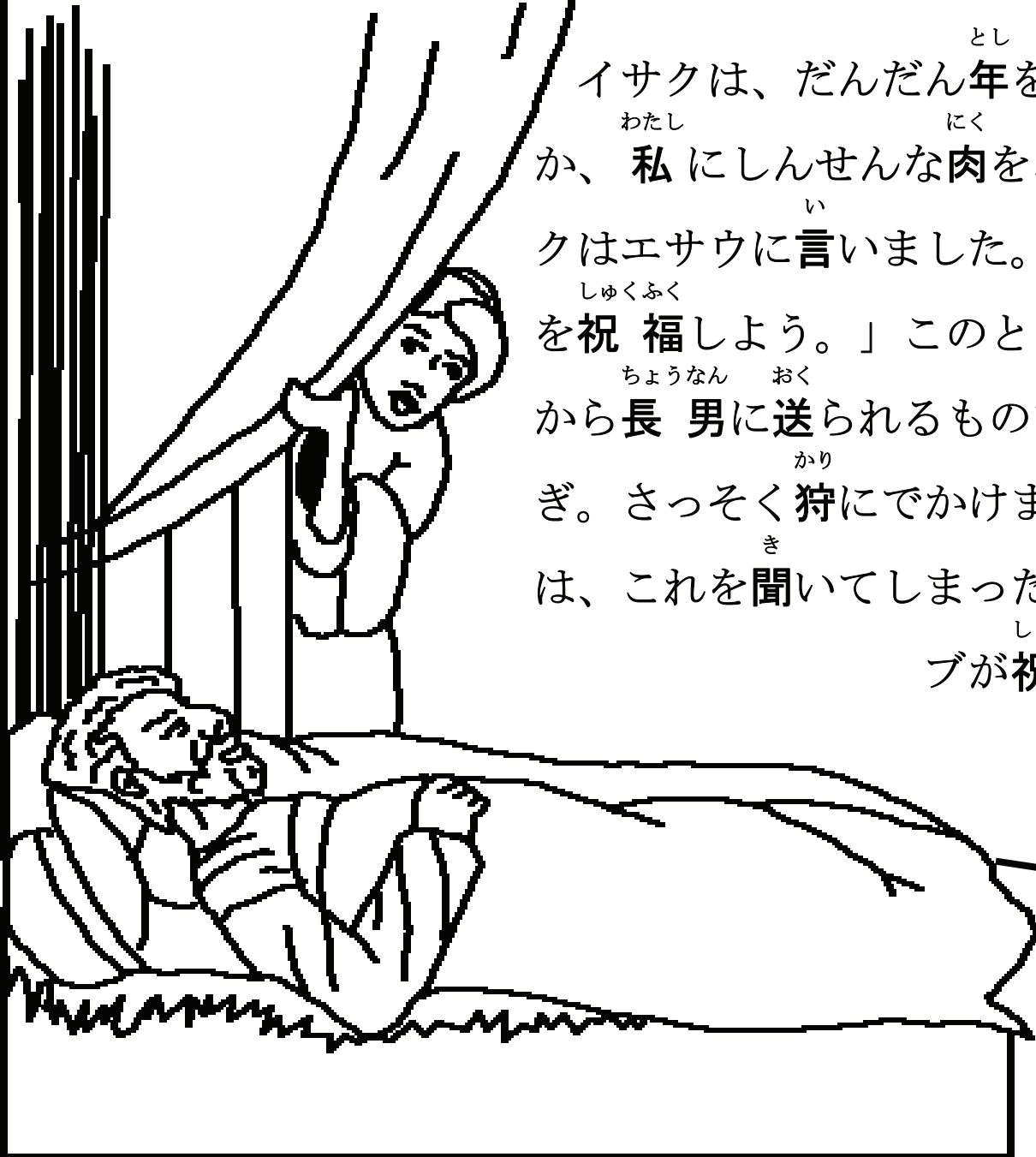
^{ちやう}の長^{ちやう}となるのでしょ^{ちやう}うね。



ある夜、^よ神^{かみ}さまはイサクに^{はな}話しかけられました。「イサク、^{わたし}私^{ちち}はあなたの父アブラハムの^{かみ}神^{わたし}である。私は、いつもあなたといっしょにしよう！そして、あなたの^{しゅくふく}しそん^{かみ}をずっと祝^{さんび}福^{むすこ}しつづけよう！」イサクは、いつも神^{かみ}さまのことを思^{おも}い、^{ふたり}賛美^{けっこん}していました。でもね、イサクの息子エサウが結婚した二人の^{かみ}へト人のおよめさんたちは、神^{かみ}さまのことなど、どうでも

よいと思^{おも}って^{ひと}いる人たち^{ひと}でした。





とし
イサクは、だんだん年をとってきました。「どう
わたし にく た
か、私にしんせんな肉を、食べさせておくれ。」イサ
い わたし
クはエサウに言いました。「そのあとで、私はおまえ
しゅくふく しゅくふく とう
を祝福しよう。」このとくべつな祝福は、お父さん
ちやうなん おく おおいそ
から長男に送られるものでした。さあ、エサウは大急
かり
ぎ。さっそく狩にでかけました。ところが、リベカ
き
は、これを聞いてしまったのでした。リベカは、ヤコ
しゅくふく おも
ブが祝福をうけてほしいと思って
いました。





ひと けいかく
リベカは、一つの計画を思いつ
いそ
きましたよ。リベカは急いでイ
だいす りょうり つく
サクの大好きな料理を作りました。
そのあいだにヤコブはエサ
ふく き けぶか
ウの服を着て、毛深いどうぶつ
かわ くび て
の皮をかれの首や手に、まきつ
め
けました。イサクは、目がよく
み
見えません。これで、たぶんリ
ベカとヤコブは、イサクをだま
せるでしょうね。



りょうり

ヤコブは、料理をイサクの
ころへはこびましたよ。「おまえは、
ヤコブのようだね。」イサクは、
こう言^いってから、「あれっ、
でもおまえの手は毛^てぶか^げくて、
まるでエサウのようだ。」と言^いいました。

しょくじ

食^{しょく}事^じがおわってから、イサクは、

じぶん まえ

自^じ分^{ぶん}の前^{まえ}でひざまずいてい
るむすこヤコブを

しゅくふく

祝^{しゅく}福^{ふく}しました。



で い
ヤコブがイサクのところを出て行ってからすぐ、エサウがやってきました。「お
とう た とう だいす しょくじ つく
父さん、さあ、**食**べてください。お父さんの**大**好きな**食**事を作りましたよ。」そ
こで、イサクは、ヤコブにだまされたことに

き
気がつきました。「ああ！なんていうこと

わたし しゅくふく
だ。私は、いちど祝 福したものを、
かえることはできないんだよ。」イサ

な
クは、こう泣きさげびました。エサ

こころ
ウの心は、もうヤコブへのにくし

ころ
みでいっぱいです。ヤコブを殺して
しまおうときめました。



リベカは、エサウがヤコブを殺すつもりだ**って**聞きつけました。「ヤコブ、大急
ぎでここを出て、おじさんの家**に**いくなだよ。兄さんのエサウが、あなたのした

ことを**忘**れてしまうまで、**戻**ってはいけないよ。

」と、リベカはこのように**言**いました。イサクは、

ヤコブが**か**れのお**母**さんの**生**まれたところに

行って、お**嫁**さんをさがせばいいと**思**い、
さんせいしてくれました。さあ、ヤコブは、

急いでうちを出て**行**きま
したよ。



よる
その夜の事です。

いし
ヤコブは、石をまくらにして

やす
休むことにしました。ヤコブは、
たぶんさびしかったでしょうね。
こわかったでしょうね。でもね、

ひとり
ヤコブは一人じゃなかったのですよ。

かみ
だって、神さまが、

なか
ゆめの中でヤコブとお話
はなし
してくださったのですから。



^{わたし}「^{わたし}は、あなたの^{ちち}父アブラハム、そしてイサクの^{かみ}神である。

^{わたし}**私**は、あなたとともにいる。^{わたし}**私**は、あなたにこの^ち地をあたえよう！

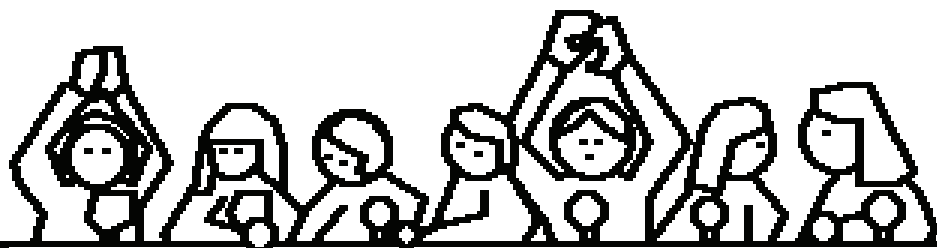
あなたによって、この^ち地のすべての^{ひとびと}人々はみんな^{しゅくふく}祝福されるであろう！」

^{かみ}神さまが、このように^{はな}話されたあと、ヤコブは、^め目がさめました。

ヤコブは、なんだかおそろしくなっていましたよ。



ヤコブのおじさんラバンは、ヤコブをよろこんでむか迎えてくれ
ましたよ。そこでヤコブは、いとこラケルにであ出会い、
すぐにす好きになりました。ラケルとけっこん結婚さ
せてもらおうとおも思った、ヤコブは、かの
女のお父さんラバンのところでしちねん七年も
のあいだ、いっしょうけんめいはた



らきました。ところが、
けっこんしき よる
結婚式の夜、ラバンはヤコ
ブをだましたのでした。

「なんてひどい！ラケルじゃなくて、レアではありませんか。」ヤコブは、
おこってい言わたしいました。「あなたは、**私**をだましたのですね。」「いやいや、
ここではね、一ばん上いちのむすめが、はじめに**結婚**けっこんせにやならんのだよ。」

ラバンは、こうこた答しちねんえました。「まあね、あと**七年**はたらい
てくれるのなら、ラケルともすぐに**結婚**けっこんできるよ。」
そこで、ヤコブはそうすることにしました。たぶん、
このときヤコブはおも思だい出したでしょう。

まえに、

ちち父あにイサクと兄エサウ
をだましたことをね。



いつのまにか、ヤコブは、

にん むすこ

もう11人もの息子たちがいました。

とし

年がすぎてゆくにつれ、

じぶん

ヤコブは自分のかぞくをつれて、

かえ

カナンへ帰りにたくてたまらなくなりました。

とう

かあ

ヤコブのお父さんやお母さんがそこにいるのです。

でも、

ころ

あに

ヤコブを殺すとちかっていた兄エサウもね。



かえ
帰ってもだいじょうぶかな？ある日、

かみ
神さまは、ヤコブに言われました。

かえ
「帰りなさい。」そこで、ヤコブはすぐに、

じぶん
自分のかぞくやヒツジやヤギのむれをあつめ、

いえ
なつかしい家しゅっぱつにむかって出 発しました。



たび

それは、なんておおぜいの旅だったことでしょう。

よんひやくにん

ひと

そこへ、なんと四百人もの人たちをつれたエ

あ

サウがヤコブに会いにやってきましたよ。

けれどもエサウは、ヤコブをやっつけ

き

るために来たのではありません。エサウ

はし

だ

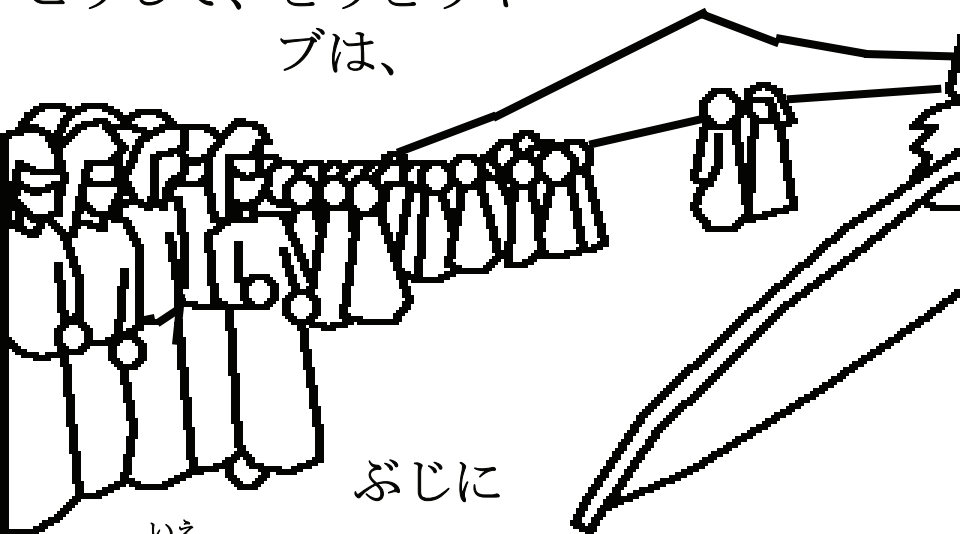
は、ヤコブのところに走りしっかりと抱きしめたのです。いまや、ヤコブとエサ

きょうだい

ウは、すっかりなかよしの兄弟でした。

こうして、とうとうヤコ

ブは、



ぶじに

いえ

家までもどれたのでした。



だましたヤコブ

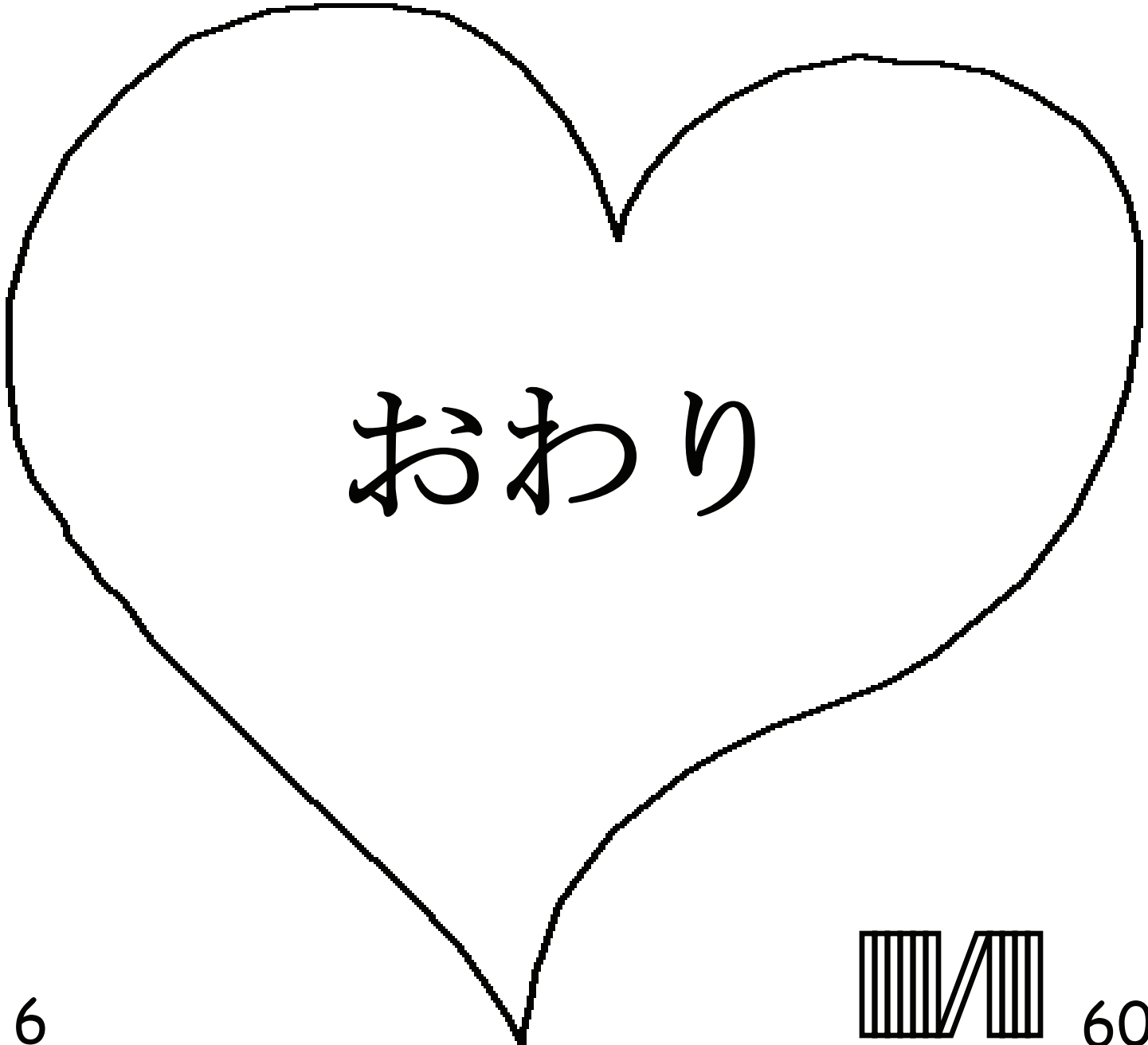
かみ み せいしょ しる
神さまの御ことば、聖書に記されているおはなしです。

そうせいき しょう しょう
創世記 25 章 - 33 章

み ひら ひかり あた
あなたの御ことばが開かれると、光が与えられます。

しへん
詩篇 119:130





おわり



6



60



せいしょものがたり わたし かみ
この聖書物語は、私たちをつくってくださったすばらしい神さまについて、
おはなししています。神さまは、あなたが、神さまのことをしてほしいと、
おも
思っていらっしゃるのです。

かみ わたし かみ
神さまは、私たちが、よくないことをしてしまったことを、しっていらっしゃいます。それを、神さま
は、罪つみとよばれています。その罪つみのむくしいは、死しです。

かみ あい ひとり こ
けれども、神さまは、あなたをとも愛あいしていらっしゃいますので、ただ一人のみ子イエスさまを、こ
よ おく つみ じゅうじかじょう な
の世よに送おくってくださいました。そしてあなたの罪つみのために、十字架じゅうじかじょう上なで亡なくなられたのです。けれども
それから、イエスさまはよみよがえられ、天国てんごくのいえへ、もどられたのですね。もし、あなたがイエスさ
ましんを信しんじ、ゆるゆるしてくださいますとおねがいするなら、イエスさまは、ゆるゆるしてくださいます！イエスさま
いま ところ き なか す
は、今いま、あなたの所ところへ来きて、あなたのこころなかの中すに住すんでくださいます。そして、いつまでもイエスさ
まといっしょいに生いきることがいできますよ。

もし、あなたが、これがほんとうだしんと信かみじるなら、神いさまにこう言いってくださいます。
あい かみ わたし かみ しん ひと わたし つみ な
愛あいする神かみさま、私わたしは、あなたが神かみさまと信しんじます。あなたは人ひととなり、私わたしたちの罪つみのために亡なくなっ
てくださいました。そして、よみよがえいって、いま生いきて
いらっしゃいます。どうか、私わたしのこころなかの中きにつみ来つみて、罪つみをゆるゆるしてくださいます。それで、私わたしは今いま、あたら
らしい命いのちをいただけます。そして、いつか、あなたの所ところへ行いき、いつまでもあなたといっしょいに
こ
い
生いきることがいできるのです。あなたにしたがえますよう、あなたの子ことして生いきることがいできますよう、たす
けてくださいます。アーメン

せいしょ かみ ふくいんしょ
まいにち、聖書をよみ、神さまとおはなししましょう！ ヨハネによる福音書3：16

